

編集にあたって

日清製粉グループでは、ウェブサイト「CSRの窓」と「社会・環境レポート」(本冊子)の2つの媒体を通じて、ステークホルダーの皆様に当社グループの社会的責任に対する姿勢や取り組みをお伝えしています。

「CSRの窓」はCSRに関する取り組みの全体を紹介し、本冊子では当社グループが重要と考える課題に対する具体的な取り組みを中心に、わかりやすさに配慮して紹介しています。

なお、製作によって発生したCO₂は国内クレジットによりオフセット(相殺)され、地球温暖化防止と東日本大震災復興支援に役立てられています。

CSR活動についての詳細な情報は、当社ウェブサイト「CSRの窓」をご覧ください。

<https://www.nisshin.com/csr/>

日清製粉グループ 社会・環境レポート2018

発行者 株式会社日清製粉グループ本社
東京都千代田区神田錦町一丁目25番地
問い合わせ先 株式会社日清製粉グループ本社 技術本部 環境管理室
TEL.03-5282-6570 FAX.03-5282-6155
ホームページ <https://www.nisshin.com>



この冊子に使用している用紙の売り上げの一部は、生物多様性を保全する活動に寄付されます。



石油系溶剤を植物油系成分に置き換えた印刷インキを使用しています。



印刷工程で有害廃液を出さない水なし印刷方式で印刷しています。



この冊子は色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮して作られています。NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構により認証されています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



印刷サービスのグリーン購入に取り組んでいます。

健康と信頼をお届けする



結ぶ心、 つなげる未来

日清製粉グループ
社会・環境レポート2018





NNI “Compass for the Future” 新しいステージに向けて ～総合力の発揮とモデルチェンジ

株式会社日清製粉グループ本社

代表取締役
取締役社長 **見目信樹**

地球規模の環境問題をはじめ、様々な資源枯渇や人口増加、食糧需給のバランス、食の多様化や健康、安全性に対する意識の高まり、グローバル化や技術革新など、当社グループを取り巻く環境は、事業において機会と脅威の何れにもなり得る大きな変革期を迎えつつあります。当社グループは、今後、更なる複雑化・高速化が予想される10年後、20年後の社会全体の構造変化を見据え、強みを最大限に活かして持続的成長を実現するために、長期ビジョン「NNI “Compass for the Future” 新しいステージに向けて～総合力の発揮とモデルチェンジ」を新たに策定しました。これを未来に向けた羅針盤として、ニュー・ニッシン・イノベーション (NNI) 活動を推進してまいります。

長期ビジョンでは、創業以来、事業を通じた社会への貢献を基本思想として守り抜いてきた、当社グループ固有の価値観をあらためて認識したうえで、「未来に向けて目指す姿」を掲げました。その実現のため、成長の鍵となる「グループ総合力」を発揮し、

事業競争力を強化することで、企業価値の極大化と持続的な循環成長*につなげていきたいと考えています。そして、これまで築いてきた「国内食品業界における確固たる地位」を揺るぎないものとしてまいります。

また、将来にわたり当社グループが事業の拡大や成長を実現していくためには、働き方改革により、社員一人ひとりが能力を発揮し成長を実感しながら働きがいを感じる職場・会社にしていくことを目指し、組織や人材の活性化とともに、ガバナンス (G) の強化、環境 (E)・社会 (S) への貢献を深く関連させた経営を推進してまいります。

これらの活動を通して、“未来に向かって、「健康」を支え「食のインフラ」を担うグローバル展開企業”として、持続可能な社会の実現に貢献し、ステークホルダーの皆様から支持され続ける企業グループを目指してまいります。

*当社グループの循環成長については3ページをご覧ください。

当社グループの長期ビジョン

創業以来の価値観

当社グループは「信を万事の本と為す」と「時代への適合」を社是とし、「健康で豊かな生活づくりに貢献する」ことを企業理念として、「長期的な企業価値の極大化」に努めてきました。

これは、過去100年以上に亘り、事業を通じた社会への貢献を基本思想として守り抜いてきた当社グループ固有の不変の価値観であり、これを再認識したうえで、「未来に向けて目指す姿」の実現に取り組んでいきます。

創業

1900年10月
「館林製粉株式会社」として創業

1908年2月
「日清製粉株式会社」を合併し社名を改称

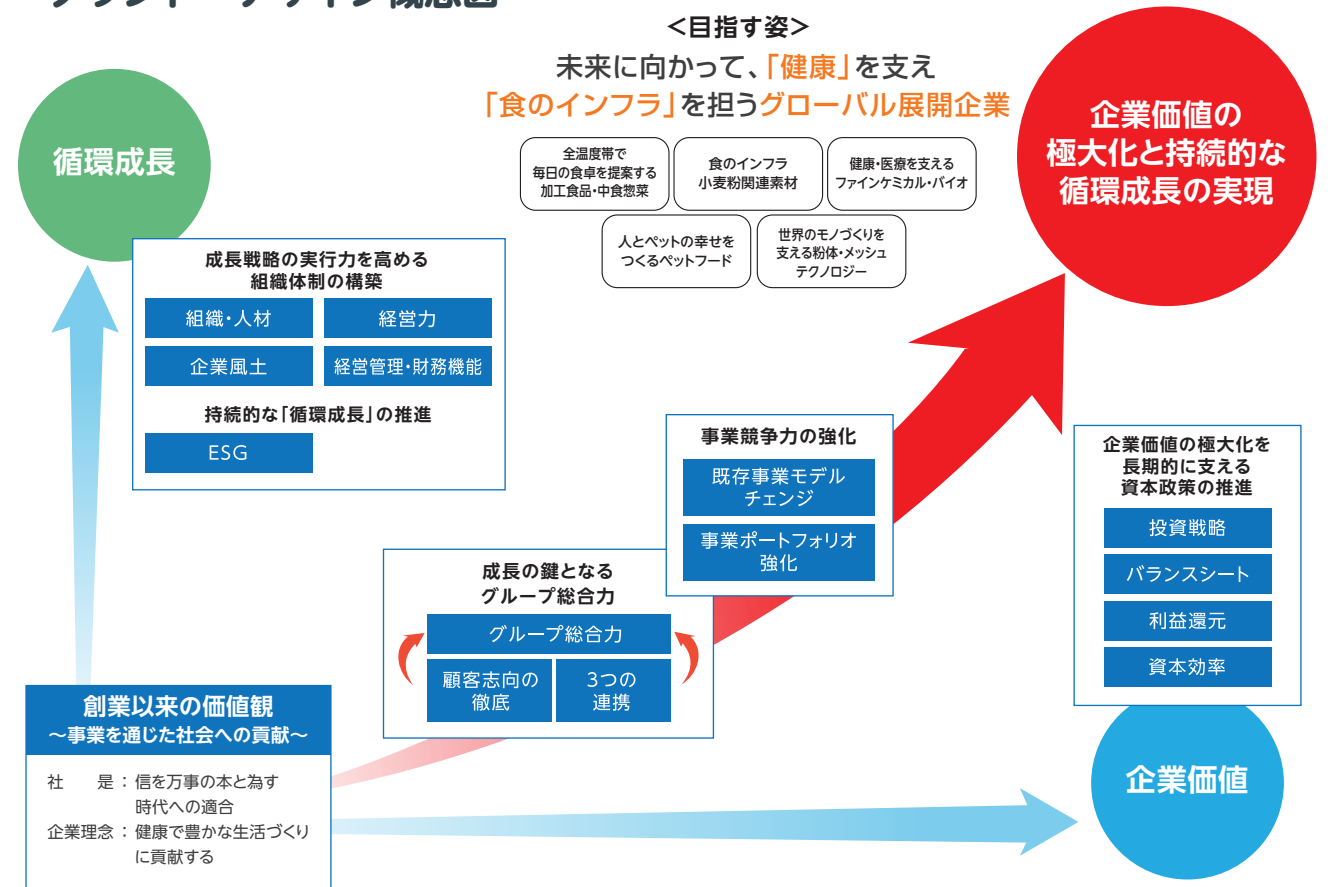
館林製粉株式会社
(群馬県館林町：現 館林市)



完成当時の鶴見工場

現在、日本最大の日清製粉鶴見工場は、1926年に当時東洋一の臨海製粉工場として完成し、1957年には生産ラインにニューマ（空気搬送）方式を導入し、小麦製粉に技術革新をもたらした。

ブランド・デザイン概念図



ブランド・デザインとは、長期ビジョンに掲げる「未来に向けて目指す姿」を実現するために、これから何を実行していくのかをとりまとめたものです。企業価値と循環成長をそれぞれ横軸と縦軸としてこのバランスを取りながら、創業以来の価値観をベースに「グループ総合力」の発揮を成長の鍵とし、「事業競争力の強化」をするために、「モデルチェンジ」「事業ポートフォリオ強化」を実行します。これらの活動を支える「資本政策の推進」、「組織体制の構築」あるいは持続的な「循環成長の推進」(ESG等)の取組みを進め、目指す姿に向かって「企業価値の極大化と持続的な循環成長の実現」を果たしていきます。

未来に向けて目指す姿

1 「安全・安心」を最優先に、多様な製品やサービスをお客様・消費者の皆様へ安定的にお届けする。

2 「グループ総合力」を結集したイノベーションを通じ社会に新たな価値を提供し続ける。

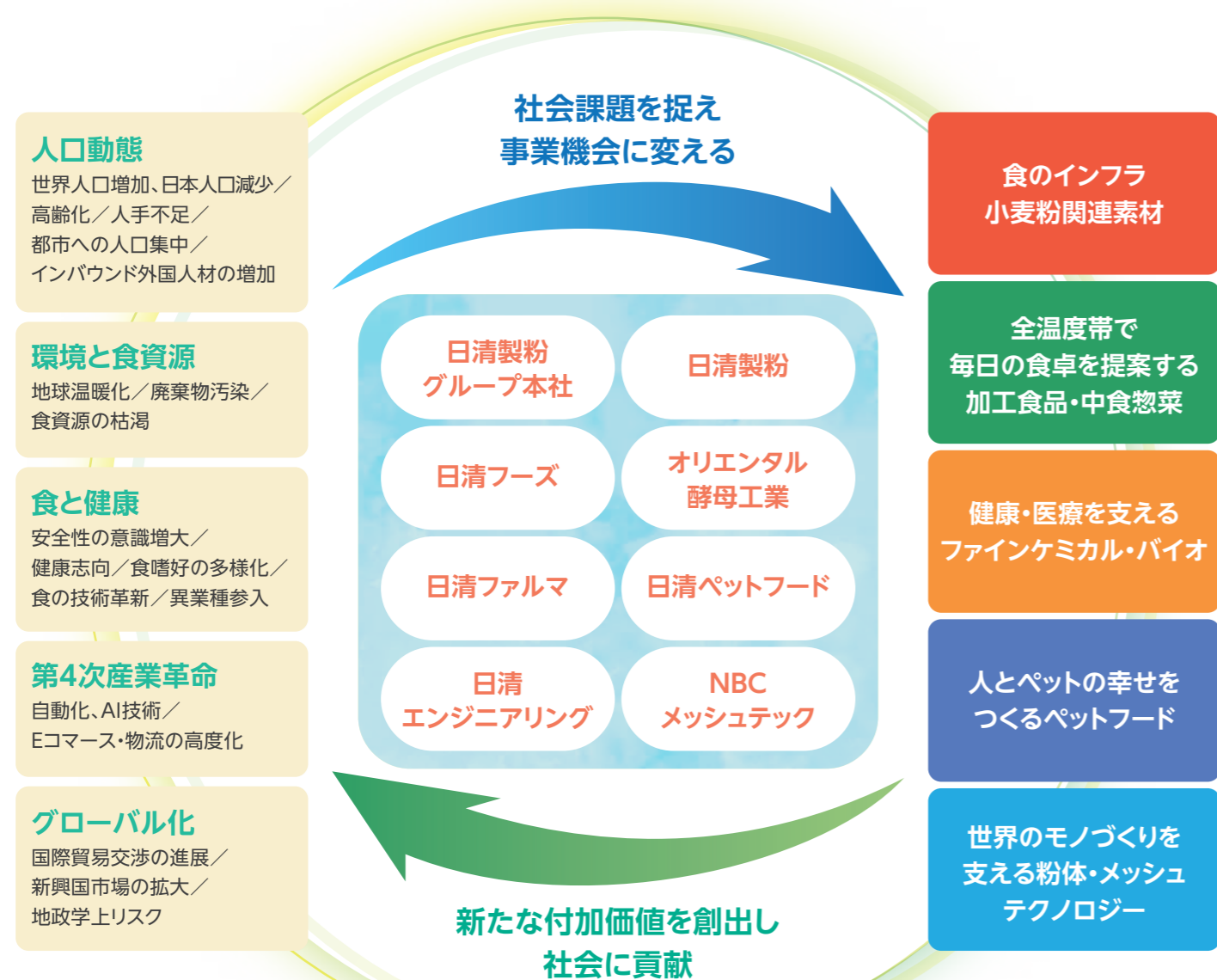
3 自由な発想とボーダレスな思考に溢れた活気ある企業グループとして、新たなことに挑戦する風土を改めて醸成し、高い収益性と着実な成長性を生み出す原動力としていく。

“未来に向かって、「健康」を支え「食のインフラ」を担う
グローバル展開企業”として、更なる発展を目指す。

企業理念に基づき、各事業が生み出す付加価値を通じ社会に貢献していく 日清製粉グループ

持ち株会社である(株)日清製粉グループ本社を中心に、118年の歴史を持つ「製粉事業」と、製粉事業を通じて培った技術を起点に「加工食品」「中食・惣菜」「酵母・バイオ」「健康食品」「ペットフード」「エンジニアリング」「メッシュクロス」の分野で事業戦略を展開しています。社会で起こるさまざまな環境変化などを事業機会に変え、当社グループの持続的な成長を実現し、その結果当社グループが創出する付加価値を通じて社会に貢献するという循環を作り上げてまいります。

日清製粉グループの「循環成長」イメージ



製粉事業



業務用小麦粉

国内小麦粉市場において、パン・麺・菓子用など幅広いラインナップにより約4割の小麦粉を供給しています。さまざまなお客様の商品コンセプトに基づいた小麦粉の提案や新しい食文化の創造にも取り組んでいます。また、海外展開にも積極的に取り組んでおり、アメリカ、カナダ、タイ、ニュージーランドにおいて小麦粉の製造・販売を行っています。

食品事業



加工食品事業

ミックス粉やパスタ・パスタソース、乾麺などの小麦粉二次加工品を中心に、家庭用・業務用それぞれの市場において、「常温」「冷凍」の2つの温度帯の製品を販売しています。



中食・惣菜事業

素材、製法にこだわった和惣菜、おせち、調理麺、おにぎり・弁当、調理パン、サラダなどのおいしい商品をお届けする、日本の食卓をリードする総合中食・惣菜メーカーを目指します。



酵母・バイオ事業

製パン・製菓企業をはじめ中食・外食産業など幅広いお客様に、イースト、総菜、マヨネーズなどの食品素材を開発し提供しています。また、独自のバイオテクノロジーを用い、診断薬原料や研究用試薬を生産・販売しています。それに加え、医薬品の研究開発支援サービスなども提供しています。

食品事業



健康食品事業

お客様のニーズを捉えた安全・安心な栄養補助食品、機能性表示食品、健康食品のほか、固有技術を活かした高品質な医薬品原薬、医薬品製剤事業を展開しています。

その他事業



ペットフード事業

「人とペットの幸せに貢献する」というミッションを掲げ、大切な家族の一員であるペットの元気と長生きのために、安心かつ高品質なペットフードの研究・開発から製造、販売、そしてアフターフォローまで、ペットライフを総合的にサポートしています。



大型穀物サイロ

エンジニアリング事業

食品・医薬品・化成品などの製造設備から工場建設にいたるまでの広範囲な「エンジニアリング事業」のほか、世界レベルの高度な粉体加工技術を用い、「機器製作販売事業」「粉体加工事業」を展開しています。



成形フィルター

メッシュクロス事業

製粉用ふるい網の技術から深化したメッシュテクノロジーは、スクリーン印刷用資材、フィルター、防虫網として自動車、住宅、通信、医療などさまざまな産業で活用されています。近年ではナノテクノロジーとの融合による機能性メッシュの開発など、暮らしに「健康」「快適」「安全」をお届けする新たな可能性に取り組んでいます。

グループ会社一覧

●…連結子会社 ○…持分法適用会社 (2018年3月31日現在)

製粉事業

- 日清製粉株式会社
 - フレッシュ・フード・サービス株式会社
 - ヤマジヨウ商事株式会社
 - ミラー・ミリング・カンパニー LLC (アメリカ)
 - チャンピオン製粉 Ltd. (ニュージーランド)
 - ロジャーズ・フーズ Ltd. (カナダ)
 - 日清STC製粉 Co., Ltd. (タイ)
 - NSTCTレーディング Co., Ltd. (タイ)
 - 石川株式会社

食品事業

- 加工食品事業
 - 日清フーズ株式会社
 - 日清製粉プレミックス株式会社
 - マ・マ・マカロニ株式会社
 - イニシオフーズ株式会社
 - タイ日清テクノミック Co., Ltd. (タイ)

- 新日清製粉食品(青島)有限公司(中国)
- PT. インドネシア日清テクノミック(インドネシア)
- メダリオン・フーズ Inc. (アメリカ)
- タイ日清製粉 Co., Ltd. (タイ)
- ベトナム日清製粉 Co., Ltd. (ベトナム)
- トルコ日清製粉 A. S. (トルコ)

- 株式会社ジョイアス・フーズ
- トオカツフーズ株式会社

酵母・バイオ事業

- オリエンタル酵母工業株式会社
 - 株式会社パニーデリカ
 - 株式会社OYCフーズネット
 - 株式会社日本バイオリサーチセンター
 - 北山ラベス株式会社
 - 株式会社オリエンタルバイオサービス
 - 株式会社ケービーティー・オリエンタル
 - OYC アメリカ Inc. (アメリカ)
 - OYC ヨーロッパ B.V. (オランダ)

- OY インド Pvt.Ltd. (インド)
- 日清製粉東酵(上海)商貿有限公司(中国)

健康食品事業

- 日清ファルマ株式会社

その他事業

- ペットフード事業
 - 日清ペットフード株式会社
- エンジニアリング事業
 - 日清エンジニアリング株式会社
- メッシュクロス事業
 - 株式会社NBCメッシュテック
 - 株式会社NBCメタルメッシュ
 - PT. NBC インドネシア(インドネシア)
 - NBCメッシュテックアメリカズ Inc.(アメリカ)
 - 恩美絲(上海)紗網貿易有限公司(中国)

- NBCメッシュテック(タイ) Co., Ltd.(タイ)

その他

- 日清丸紅飼料株式会社
- 日本ロジテム株式会社
- 日清サイロ株式会社
- 阪神サイロ株式会社
- 千葉共同サイロ株式会社
- 信和開発株式会社

持株会社

- 株式会社日清製粉グループ本社
 - 日清アソシエイツ株式会社
 - 錦業(煙台)食品研究開発有限公司(中国)
- 他 連結子会社3社
- 持分法適用会社4社



主要食糧の安定供給 (安全・安心)

国民の主要食糧である小麦粉等の安定供給を確保し、安全・安心な製品を供給するという使命を果たしてまいります。



新たに買収した製粉工場
(日清 STC 製粉シラチャ工場)

2017年10月に本格稼働した新ライン
(ロジャーズ・フーズチリワック工場)

2019年初頭に完工予定の新ライン
(ミラー・ミリング・カンパニー・LLCサギノー工場)

製粉事業の拡大

製粉事業では、タイの日清STC製粉の製粉工場の買収により、今後拡大が期待されるアジアでの小麦粉需要増加への対応が可能となります。2017年10月に本格稼働したロジャーズ・フーズチリワック工場の新製造ライン(新ライン)に続き、2019年初頭には米国のミラー・ミリング・カンパニー・LLCサギノー工場における生産能力の増強工事が完了する予定です。この結果、当社グループの海外における1日当たりの小麦粉生産能力は国内を上回る規模に拡大します。

安定供給のために

国内最大級の小麦サイロと製粉設備を持つ当社グループにとって、社会に食品を安定的にお届けすることは社会的使命です。国内製粉工場の生産体制の合理化やサイロ増設などの供給体制の強化だけでなく、原料となる小麦の生育状況を産地で確認し、生産者とのコミュニケーションに努めています。災害時でも消費者の皆様への生活への影響を最小限に留めるように、管理体制の確立、設備面の強化など、食品供給を確保する対策をしています。地震や津波などの自然災害などから想定される当社グループの事業への影響を小さくするために、さまざまな対策に取り組んでいます。



日本最大の生産能力の製粉工場。大型船舶の接岸が可能な専用岸壁と大型の小麦サイロを有し、地震や津波などへの対策が講じられています。(日清製粉鶴見工場)

消費者視点での品質保証

消費者の皆様においしく、安全・安心な食品を提供することを何よりも大切に考え、当社グループの社員一人ひとりが「消費者視点での品質保証」を実践しています。食品安全マネジメントシステムの導入や品質保証責任者制度を運用することにより、製品開発・原料調達から製造・物流までの全ての工程の安全性の確保に努めています。また、消費者の皆様に安心していただけるように、食品防衛(フードディフェンス)を含め、監査やモニタリングを通じて、安全・安心な製品の提供を確認しています。



第三者の目で出荷を判定

工場には、生産部門から独立し、消費者の視点で品質をチェックして最終出荷判定を担う品質保証責任者が駐在しています。品質保証責任者は、出荷判定について工場長と同等の権限を有しています。

多様化するニーズに応える製品・商品開発力

少子高齢化や社会構造の変化など、社会のライフスタイルの変化とともに生活者のニーズも多様化しています。当社グループの強みである製品・商品開発力と品質管理により、健康で豊かな生活づくりに貢献します。



高まる健康意識をサポートする製品(日清フーズ)

高機能・高品質の健康食品(日清フルマ)



中・惣菜事業では手軽においしく召し上がれる多彩なメニューを提供
(イニシオフーズ、ジョイアスフーズ、トオカツフーズ)



特定の病気の症状に対する療法食として獣医師の指導の下で与えるペットフード(犬用、猫用)
(日清ペットフード)

一人ひとりが能力を発揮し成長と働きがいを 感じられる企業グループを目指して

当社グループでは、社員が働き続けやすいだけでなく働きがいを感ぜられる会社にしていくことが、将来にわたって当社グループが成長を続け、社会から期待される役割を果たし続けることにつながると考えて、「働き方改革」に取り組んでいます。業務の効率化を図ることはもちろん、能力発揮を促す仕組みや多様な働き方を選択できる仕組みづくり、社員の啓発などを通じて、働きがいを感ぜられる風土づくりに取り組んでいます。

より柔軟な勤務を可能にする取組み例

- ・年次有給休暇の取得奨励
- ・コアタイムのないフレックスタイム制度*
- ・1時間単位で取得可能な年休制度*
- ※2018年4月より導入

食品企業5社共同企画 ダイバーシティフォーラム「SPIRAL UP!」開催



ダイバーシティや働き方改革の重要性・必要性に対する意識を高め、自社の取組みを推進することを目的として、食品企業5社の共同企画にて開催されました。他社から学ぶことを目的とした基調講演とパネルディスカッションで構成され、当社グループからは121名の社員が参加し、ダイバーシティの重要性や、多様な働き方に対する理解を深めるための良い機会となりました。

業務効率化・能力発揮・風土づくりの取組み例

- ・業務の改善による生産性向上
- ・目標管理制度を通じた一人ひとりの成長・能力発揮の促進
- ・研修や講演会、社内広報などを通じた社員への浸透
- ・eラーニングによる社内制度の周知・理解促進



ステークホルダーとの かかわり

日清製粉グループは、さまざまな機会を通じてステークホルダーの方々とコミュニケーションを図りながら、各ステークホルダーから積極的に支持され続けるグループになるよう努めています。

消費者志向経営の推進

当社グループでは、消費者視点に立った品質保証、お客様の声の事業活動への反映に努めています。経営直轄の消費者志向経営推進組織としてCR室(=Consumer Relations Office)を設置しており、消費者から積極的に支持されるべく、さまざまな取組みを展開しております。

また、消費者庁が推進する消費者志向経営に向けた取組み「消費者志向自主宣言・フォローアップ活動」に賛同し、昨年4月に公表した「消費者志向自主宣言」に基づき、昨年度に実施した取組みをまとめた「フォローアップ活動報告」を今年7月に公表しました。引き続き、社会的・環境的に有益な製品やサービスの提供等、持続可能な社会の構築に向けて社会的責任を果たし、消費者からの信頼を得て選ばれる企業を目指してまいります。



消費者団体等との意見交換

消費者の皆様と対話ができる関係づくりの第一歩として工場見学・意見交換会を開催しています。製品安全の取組みへの理解を深めていただくとともに、日ごろ疑問に思われていることについて双方でコミュニケーションに努めています。



子ども童が関見学デー(文部科学省・農林水産省)

小麦や小麦粉の性質、小麦粉がどのように作られるのかなど、簡単な実演を交えて楽しく学んでいただきました。

「小麦粉」に親しんでいただくために

フラワー手づくり教室®の開催
1973年より開催しており、小麦粉を使った食の大切さと手づくりの楽しさをお伝えしています。



全国高校生料理コンクールの開催

全国高等学校家庭クラブ連盟主催「日清製粉グループ協賛で、「全国高校生料理コンクール」を、毎年開催しています。小麦粉や小麦粉製品を通じて地域の食材や旬の味覚に親しむ機会を提供しています。



入賞作品

Loro Zucca

サクサク、フワフワ
れんこんとアジの和風ピザ

自然な甘さ甘酒ミルクレープ

健康で豊かな食生活の向上に寄与する

食生活研究会

日清製粉グループ本社が支援している公益財団法人食生活研究会は、1941年に、日清製粉株式会社創始者正田貞一郎が財団法人農産化学研究会を設立したことに始まり、創設以来、長年にわたり「食」にかかわる研究者や研究機関を対象とした研究助成を続けてきました。2017年度は13件の研究助成と1件の研究機関への財政支援を実施しました。また、大学や研究機関等の留学生への支援を通じて、広く日本の文化に触れて日本の良さ理解者として母国と日本の「架け橋」となる人材の育成を支援しています。



奨学金支給の決定書授与式



環境とのかかわり

地球的規模での環境保全を図りながら、自由で活力ある企業活動を目指します。

環境負荷の小さい製造の実現に向けて

地球温暖化対策と資源の有効利用について、当社グループは、2030年までの中期目標を策定しています。将来の事業の持続的成長を見据えながら、省エネルギー施策や徹底した生産効率の改善、資源の有効利用に積極的に努めています。当社グループはISO14001環境マネジメントシステムを運用しており、製造拠点だけでなく、オフィス、営業拠点、研究所を含めたグループ全体で一括認証を受けており、事業と一体となった環境経営を実践していることについて審査機関により確認されています。環境負荷の小さい製造の実現に向けてグループ全体で取り組んでいます。

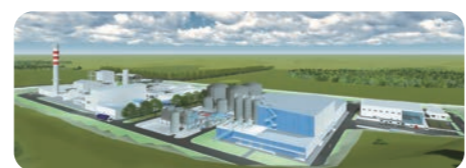
再生可能エネルギーの活用



大規模な太陽光発電を導入した製粉工場。使用電力の約15%が再生可能エネルギーから供給されています。(ミラー・ミリング・カンパニー・LLCフレズノ工場)

水資源を大切に使う

インドのマハラシュトラ州アネ市近郊に建設を計画しているイースト工場は、工場敷地外に排水しないゼロ排水システム(ZLD: Zero Liquid Discharge)を導入します。濃厚排水は濃縮してポイラーで焼却するほか、希薄排水は浄化処理後に再生水として工場内で再利用することで、敷地からのゼロ排水を実現いたします。また、工程から発生する汚泥は肥料原料として再利用されます。(OY インド Pvt. Ltd.)



イースト工場(イメージ)

製品を通じた取組み

当社グループはご家庭やお客先で役立つ製品をお届けすることで、社会における環境負荷低減に貢献してまいります。

自然の形で快適空間をつくる

NBCメッシュテックの「フラクタルひよけ」は、木漏れ日の構造の研究から開発されました。フラクタル構造の適度な隙間のあるひよけは、電気などのエネルギーを使用せずに、木かげのような木漏れ日や自然な風通しにより、快適な空間をつくれます。

(注)フラクタル…木の枝や葉っぱ、海岸や山など、同じパターンで表せる自然の幾何学構造のこと。



おにぎりの品質向上を実現し廃棄ロス削減

おにぎりのバラエティ化が進むなかで、オリエンタル酵母工業のおにぎり品質向上剤「ナイスライス結・ナイスライス快」は、チャーハンなどの油が多く崩れやすい混ぜご飯のおにぎりの形状維持や、赤飯などのもち米のおにぎりを崩れやすくするために役立ちます。見た目や食べやすさの向上だけでなく、製造工程などにおける形状が崩れることに起因した廃棄ロスの削減につながります。



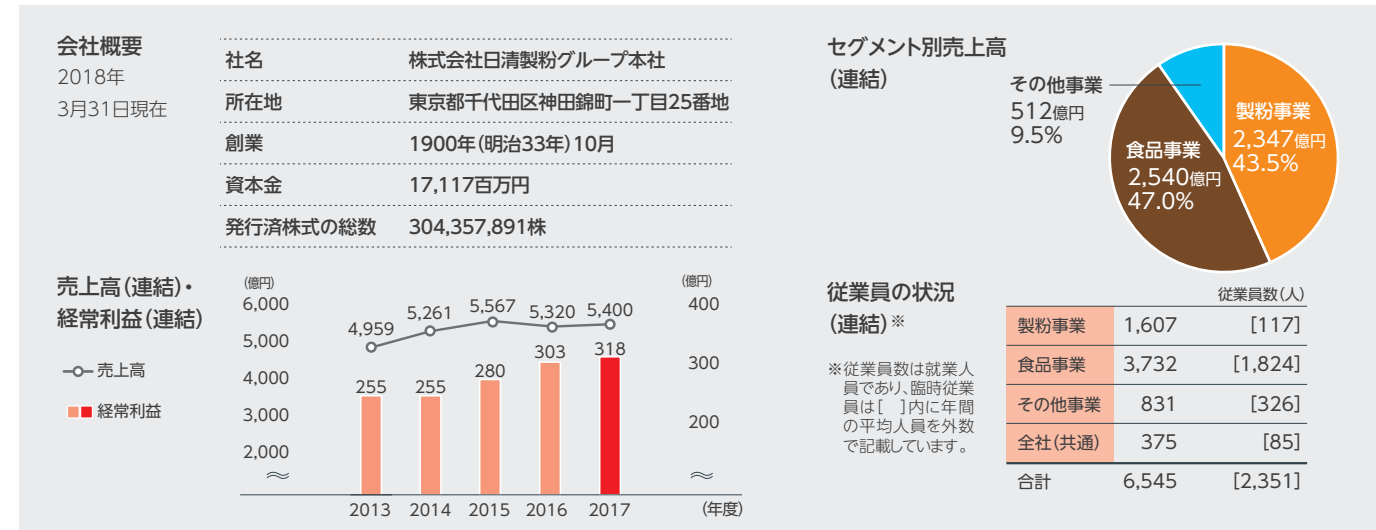
“未来に向かって、 「健康」を支え 「食のインフラ」を担う グローバル展開企業へ”



主要経営指標・CSRデータ

日清製粉グループの事業活動に伴う環境保全と社会的責任に関わる主要な実績についてご報告します。

(より詳細な情報については、当社ウェブサイト「CSRの窓」<https://www.nisshin.com/csr/>をご覧ください。)



環境保全

日清製粉グループ中期環境目標

- 地球温暖化対策**
 - 2030年度までに2013年度比でCO₂総排出量26%削減(国内)
 - 2030年度までに2013年度比で原単位7.8%削減(海外)
- 資源の有効利用**
 - グループ全体でゼロエミッションを維持する(国内)
 - 2020年度までに事業場単位(国内)でもゼロエミッションの達成を目指す

	2015年度	2016年度	2017年度
CO ₂ 排出量[t-kt-co ₂]	290	297	290
売上高原単位[t-co ₂ /百万円](国内)	0.475	0.488	0.471
廃棄物等総排出量[kt]	60	60	62
再資源化率[%](国内)	99.9	99.9	100.0

【製造にかかわるCO₂排出量】(国内・海外)
 ・国内の排出係数は、一般送配電事業者10社の全電源平均により算出。
 ・海外事業所の電気使用に係る排出量の算定は、OECDの係数を使用。

【廃棄物等総排出量】(国内・海外)
 ・産業廃棄物量+一般廃棄物量+有価物量

【再資源化率】(国内)
 ・(マテリアルリサイクル量+サーマルリサイクル量)÷廃棄物等総排出量

食品循環資源の再生利用(食品リサイクル法に基づく)

	2015年度	2016年度	2017年度
食品廃棄物発生量[kt]	11	11	10
再生利用実施率(%)	99.7	99.7	99.7

水資源の利用

	2015年度	2016年度	2017年度
水資源投入量[千m ³]	3,541	3,380	4,152
売上高原単位[m ³ /百万円]	6.36	6.35	7.69
総排水量[千m ³](国内)	1,929	1,774	2,578

環境マネジメント
 工場だけでなく、研究所・営業部署などのオフィスも含めて、ISO14001 統合認証を取得し、外部審査や内部監査などを通じて、EMS(環境マネジメントシステム)の運用状況を確認しながら、継続的な改善を続けています。さらに独自の厳しい基準に基づいたグループ環境監査を実施しており、環境に関連した法令順守や目標の達成状況などを確認しており、近年の改善命令や改善勧告の件数は低い水準を維持しています。

グループ環境監査の実績

	2015年度	2016年度	2017年度
実施事業会社数	15社	13社	17社
実施事業場	23か所	26か所	26か所

環境法令の順守

	2015年度	2016年度	2017年度
環境法令違反・重大環境事故発生件数	0件	0件	0件

働きやすい職場づくり

ダイバーシティの推進

	2015年度	2016年度	2017年度
新卒採用における女性比率	29.8%	33.3%	43.5%
係長級に占める女性比率	17.2%	18.3%	19.2%
管理職に占める女性比率	4.7%	5.9%	6.8%
障がい者雇用率*	2.31%	2.56%	2.75%

算定範囲:日清製粉グループ本社、日清製粉、日清フーズ、日清ペットフード、日清ファルマ、日清エンジニアリング、オリエンタル酵母工業、NBCメッシュテック
障がい者雇用率算定範囲:日清製粉グループ本社
 ※2018年6月1日時点のデータ

人権啓発の取組み

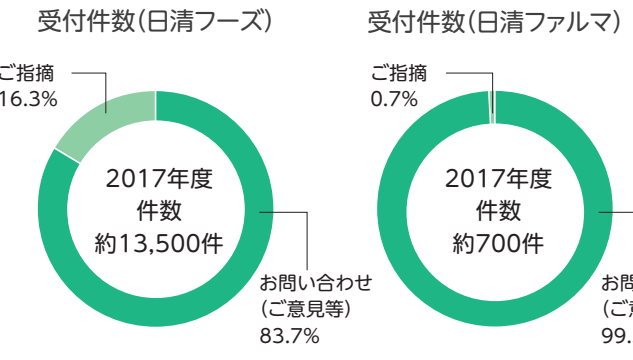
	2015年度	2016年度	2017年度
人権啓発研修受講率	99.6%	99.7%	100%
人権啓発標語の応募数	3,100点	3,421点	3,814点

労働災害発生状況

	2015年度	2016年度	2017年度
死亡災害件数	0	0	0
休業災害件数	3	3	5
休業災害度数率	0.76	0.77	1.29
不休災害件数	14	21	21
交通事故件数	91	81	86

算定範囲:日清製粉グループ本社、日清製粉、日清フーズ、日清ペットフード、日清ファルマ、日清エンジニアリング、オリエンタル酵母工業、NBCメッシュテック
 休業災害度数率は製造および研究部門を対象
 休業災害度数率とは、100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で、災害発生の頻度を表す。(参考)2017年の製造業における休業災害度数率は1.02

お客様相談室の受付件数



当社グループに対する外部評価

日清製粉グループのCSR活動は、国内外の外部機関からの高い評価を受け、FTSE4Good IndexやSNAM サステナビリティ・インデックスなどの構成銘柄に選定されています。
 また、当社は、経済産業省と日本健康会議が共同で選定する「健康経営優良法人ホワイト500」に2年連続で選定されました。

社会貢献活動費について

2017年度の社会貢献活動への支出総額は2億3600万円です。
 ※経団連1%クラブ社会貢献活動実績調査の算出方法による

NPO法人しんせい「ジャパンSDGsアワード」受賞

「第1回ジャパンSDGsアワード*」において、当社グループが支援しているNPO法人しんせい(福島県郡山市)が、「SDGs推進副本部長(内閣官房長官)賞」を受賞しました。同県内の13福祉事業所と新製品を開発し、分業で全国からの受注に応える「福島発障がい者協働プロジェクト」を構築しました。当社グループは「魔法のお菓子 ぼるぼろん」について、職員や利用者(障がい者)への技術研修や社内共同購入などにより支援しています。富永事務局長らが受賞報告のために来社され、当社グループを代表して滝澤副本部長から祝意を伝えました。



魔法のお菓子 ぼるぼろん
 ※我が国において、持続可能な開発目標(SDGs)に係る施策の推進を図るため、内閣総理大臣を本部長として、全国務大臣を構成員に設置された機関であるSDGs推進本部が主催

スポーツ関連の協賛について

2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピックを間近に控え、スポーツがますます注目されるなか、当社グループはバレーボール競技を中心とするスポーツへの協賛を通じて、スポーツを行う人に限らず、それを支える人、応援する人など、スポーツに携わるすべての人の夢や挑戦を応援する活動を行っています。



OB・OG選手を講師に迎えて開催される、小学生向けのバレーボール教室やベースボール教室に協賛し、子どもたちの夢や挑戦を応援しています。

FTSE4Good

FTSE Blossom Japan

Member of SNAM Sustainability Index 2018

2018 健康経営優良法人 Health and productivity ホワイト500